

東西人種
の博覽會

露貨と英
貨

日露戰爭
の影響

里、北京を距る一千九百零九里に在り。回、漢の二城相隔つること約二里其の回城内には喀什噶爾道臺、疏附縣^{スフ}、協臺^{フシエン}の諸衙門及電信局、通商局、銀元局等を置き、其の北門外には、露國領事英國印度貿易事務官駐在し、露清銀行支店並に露國の郵便局等あり、又漢城内には、喀什噶爾提臺、疏勒^{スル}府衙門あり、人家回城は六千五百戸、漢城は一
千五百戸、人口合して約六萬とす。

回城は商況繁盛なること、省内第一にして、露領土耳其機斯坦、阿富汗、『カシミヤ』等の諸國人種、各異の服裝を爲し、市中を往來するの狀は、宛然東西人種の博覽會を見る如く、此内最も多きは露人にて總て商賈とし、其の在住者約五百名あり、次は印度商人約三百名とす。是等の外商は、皆客店中に滞在しつゝ、平常卸賣を爲し、市日露店を張る者多く、開店する者少なし。故に市日には特に熱鬧を極む。聞く此地露貨大半を占め、葉爾羌は英貨其の大部を占む。英貨は天鵝絨、金銀綌、寶石、珊瑚、眞珠等高貴の裝飾品多く、露貨は金巾、更紗、食器類、銅、鐵器等日用品を多しとす。又聞く露貨毎年の輸入額は、數百萬兩の巨額に達し、輸入は常に輸出を超過するを例とせしに、日露戰役後の狀況は、俄然一變し來りて、漸次反對の結果を呈するに至れり